



日本地球化学会ニュース

No.189 June 2007

Contents

2007年度日本地球化学会年会のお知らせ(2).....	2
第2回地球化学会ショートコースのお知らせ.....	3
学会からのお知らせ	3
日本地球化学会2008・2009年度役員選挙の立候補および推薦候補者の 届出について	
「地球化学」掲載論文のPDFファイルについて	
2007年度第2回鳥居基金助成の募集	
2007年度「信州フィールド科学賞」募集要項	
研究会などのお知らせ	5
独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム2007(京都:6/16,東京:6/24)	
2007年惑星科学フロンティアセミナー(7/21~24)	
人事公募	7
東京大学海洋研究所海洋化学部門 教授・1名(7/10〆切)	
神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 准教授・1名(7/20〆切)	
院生による研究室紹介 No.6	8
大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 松田研究室	
女性研究者に聞く No.6	10
名古屋大学年代測定総合研究センター 准教授 南 雅代	
書評	12
講演要旨作成上の注意	14

2007年度日本地球化学会年会のお知らせ(2)

主催: 日本地球化学会

会期: 9月19日(水)~21日(金)

会場: 岡山大学津島キャンパス一般教育 B 棟

(岡山市津島中2 1 1)

JR 岡山駅下車・駅西口より徒歩約30分またはバス約15分「岡大西門」

または JR 岡山駅乗換・津山線法界院駅下車徒歩約10分

(<http://www.okayama-u.ac.jp/jp/access.html>)

内容: 一般講演(口頭発表及びポスター発表), 課題講演(口頭発表及びポスター発表), 夜間小集会, 総会, 学会賞受賞講演, 懇親会

若手優秀ポスター賞: きわめて優れたポスター発表を行なった日本地球化学会学生会員に授与します(受賞者発表は懇親会の際に行ないます)。

一般講演発表分野: 大気/降水・岩石/地殻・鉱床・有機物・生物・陸水・温泉/熱水・地球外物質・海洋・堆積物・環境・その他地球化学全般に関わる講演を募ります。口頭発表は討論を含め原則15分の予定で, 多くの方が発表できるように一人一件とします。二件目からはポスター発表をお願いします。

課題講演テーマ: (本年は下記の2テーマに関連する講演を募ります。)

課題講演 - 1 「地球化学における分析技術の進展」

趣旨: 物質を扱う宇宙地球科学・環境科学において, 新しい分野の開拓は新しい分析技術進展によりなされる場合が多い。昨年の年会では, 環境化学に絞った「環境地球化学の新技术・新指標」と題する課題討論が企画され, 多数の講演申込みがあった。本年はさらに広い地球科学分野を対象に, 精度向上など既存の分析実験技術開発なども含めた分析技術の進展に重点をおいた講演を募る。同時に, 地球化学分野外の研究者が期待する地球化学分野の実験分析技術に関する講演も歓迎する。

コンピーナー: 西尾嘉朗(JAMSTEC), 谷水雅治(JAMSTEC), 高橋嘉夫(広島大), 岡村慶(高知大)

課題講演 - 2 「地球環境と同位体」

趣旨: 地球環境の進化および変動に伴って, 様々な元素の同位体組成が変化し, 多くの地球環境解析に使用されてきた。近年, 遷移金属元素の同位体比, 質

量に依存しない同位体分別, 有機化合物レベル同位体比, イオンプローブによる高分解能同位体比など新しい同位体組成解析法が地球環境の研究に使用されるようになってきた。本課題研究ではこれら最近の同位体地球化学による地球環境研究へのアプローチを議論する。

コンピーナー: 奈良岡浩(岡山大), 山口耕生(JAMSTEC), 佐野有司(東大海洋研)

講演申込受付: 年会 web page (<http://www.geochem.jp/meeting/>) からのみ受け付けます。6月6日(水) 14時開始, 6月27日(水) 14時~~切~~。web page からの申込が困難な場合は, 下記の問合せ先に, ~~切~~の1週間前までにご連絡ください。

講演予稿原稿受付: 年会 web page (<http://www.geochem.jp/meeting/>) からのみ受け付けます。7月11日(水) 14時開始, 7月25日(水) 14時~~切~~。講演要旨の書き方は, 本ニュース最後にある「講演要旨作成上の注意」または上記 web page をご覧下さい。web page からの申込が困難な場合は, 下記の問合せ先に, ~~切~~の1週間前までにご連絡ください。

参加予約申込: 年会 web page (<http://www.geochem.jp/meeting/>) から, 指示に従って申し込んで下さい。6月6日(水) 14時開始, 8月29日(水) 14時~~切~~。

参加登録費: (講演要旨集1部と送料を含む) 予約申込: 一般会員5,000円, 学生会員3,000円, 会員外7,000円, 会員外学生4,000円。当日受付: 一般会員6,000円, 学生会員4,000円, 会員外8,000円, 会員外学生5,000円。

懇親会: 9月20日夜間, 岡山ロイヤルホテルにて。予約6,000円(学生3,000円), 当日7,000円(学生4,000円)。

講演要旨集 (当日販売): 3,000円/部 (郵送の場合: 3,500円/部)

予約申込による参加登録費・懇親会会費・講演要旨集代金の支払い方法: 参加登録費, 懇親会参加費, 要旨集代金のお支払いは, 年会 web page (<http://www.geochem.jp/meeting/>) から, クレジットカードによるオンライン決済でお願いいたします。なお, クレジットカードは本人名義でなくとも使えます。クレジットカードによるお支払いが困難な場合は, 下記の年会問合せ先に, ~~切~~の1週間前までにお問い合わせください。年会当日の参加登録費のお支払いは現金となります。領収書を必要とする場合

は、年会当日に受付にお申し出ください。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会を併設する予定です。詳細についてはお問い合わせください。

その他：宿泊/航空券等をJTB中国四国・岡山支店が斡旋いたします。ご利用に関しては年会web page (<http://www.geochem.jp/meeting/>) からお願いいたします。

問合せ先：

〒700 8530 岡山市津島中3 1 1
岡山大学理学部地球科学科 千葉 仁
Tel : 086 251 7781, Fax : 086 251 7895
E-mail : hchiba@cc.okayama-u.ac.jp

2007年度日本地球化学会公開講演会について

今年度も市民向けの公開講演会の開催を企画してきましたが、科学研究費補助金(研究成果公開)が採択されなかったため、中止とさせていただきます。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

第2回地球化学会ショートコースのお知らせ

大学生・大学院生を対象とした第2回地球化学会「ショートコース」を、年会日程(平成19年9月19~21日)に合わせ、9月18日(火)に開催します。本ショートコースでは、地球化学を研究する上で必須となる基礎知識の包括的修得と、最先端研究に触れることによる視点の拡大、という次の二つの目標を掲げ、将来の地球化学を担う若手研究者(大学生・大学院生)の育成を目指します。

日時：9月18日(火)(日本地球化学会年会前日)
午前9時30分から夜6時頃まで

会場：岡山大学一般教育棟
教室番号については未定ですが、昨年と同じく

年会会場(岡山大学一般教育棟：岡山市津島中2 1 1)を想定しています。年会会場へのアクセス方法については、日本地球化学会2007年年会ホームページ：<http://www.geochem.jp/meeting/index.html> をご覧ください。

定員：50名(先着順)。9月3日(月)を参加申込締切日としますが、定員になり次第、締め切らせて頂きます。

参加費：3,000円(講師謝金費、資料代、弁当代等を含む)。当日受付で徴収いたします。日本地球化学会学生会員は学会からの補助により2,000円引とします。

申込み方法：詳細については上記ホームページで随時お知らせ致します。

学会からのお知らせ

日本地球化学会2008・2009年度役員選挙の立候補および推薦候補者の届出について

[選挙公示]

本会会則により2008・2009年度役員選挙を以下の日程で行います。

立候補・候補者推薦締め切り	7月2日(月)必着
選挙公報・投票用紙発送	7月下旬
投票締め切り	8月31日(金)
選挙結果公表(総会)	9月20日(木)

つきましては、下記要領で会長・副会長・監事・評議員に対して、それぞれ立候補者および推薦候補者の届け出をしていただくようお願いいたします。

1. 会長1名、副会長1名、監事1名、評議員20名を選出します。
2. 立候補者の届け出は、届書を立候補者自身が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委



員会宛に送付して下さい。推薦書の例は、学会ホームページの「学会からのお知らせ」にリンクされた選挙公示のページからダウンロードすることができます。

3. 推薦候補者の届け出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に推薦候補者の承諾書を添えて、推薦者またはその代表者が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委員会宛に送付して下さい。なお役員選出細則第8条により、次の方々は次期評議員に選出することができません。

赤木 右、植田千秋、河村公隆、千葉 仁、
中井俊一、山本綱志

4. 第2項、第3項に記した以外の方法で届け出が行われた場合には、届け出を受け付けることができません。郵送の場合には裏に(選挙)と記し、「書留郵便」としてください。

5. 届け出の締め切りは7月2日(必着)です。

6. 選挙管理委員会の所在地は次のとおりです。

〒464 8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科

地球環境科学専攻 山本綱志

Tel/Fax : 052 789 2522

E-mail : yamamoto@eps.nagoya-u.ac.jp

「地球化学」掲載論文のPDFファイルについて

日本地球化学会発行の邦文誌「地球化学」に掲載された論文について、別刷りを50部以上申し込まれた著者にPDFファイルを差し上げることになりました。今後は別刷り購入時に、PDFファイルも同時に受け取ることとなります。昨年発行された記事(40巻)については、編集長が対応します。PDFファイルを希望される著者は「地球化学」編集長(益田 chika@geochem.jp)までメールで連絡して下さい。

2007年度第2回鳥居基金助成の募集

2007年度第2回鳥居基金助成の応募の締め切りは2007年7月末日となります。本学会ホームページに応募要項がありますので、ご参照の上、応募書類を提出して下さい。なお今回の助成の対象は、2007年10月から2008年9月までの1年間に実施される海外渡航及び国内研究集会となりますのでご注意ください。

申請手続

応募者は、Vol 39特別号(会員名簿)の89、90ペー

ジに掲載されている申請書(1)-Aまたは(1)-B)を所定の期日までに下記に提出する。参考となる資料(海外派遣については業績リストおよび学会参加の場合は学会概要等、国内研究集会については集会の案内・概要等)を添付すること。なお、海外渡航により国際学会等での研究発表を行なう場合は、申請書の「研究の目的」欄に、渡航にあたっての抱負や発表する論文の内容・重要性などを記載して下さい。

提出先：植田千秋(庶務幹事)

〒560 0043 大阪府豊中市待兼山町1 1

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻

Tel : 06 6850 5798, Fax : 06 6850 5480

E-mail : shomu@geochem.jp

2007年度「信州フィールド科学賞」募集要項

1. 賞の趣旨

信州大学山岳科学総合研究所は、山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました。山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です。多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり、フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め、さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから、「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました。

2. 募集対象

「信州フィールド科学賞」

山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者(2007年度末で35才以下)を対象とします。研究対象や分野は問いません。

「信州フィールド科学奨励賞」

1種：山岳地域においてグループで調査活動を行っている高校生を対象とします。

2種：山岳地域のフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学等の(過去3年間に提出された)卒業論文を対象とします。

3. 受賞

「信州フィールド科学賞」

受賞者は毎年度1名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞20万円を贈呈します。

「信州フィールド科学奨励賞」

受賞者は毎年度1種：1グループ、2種：1名とします。それぞれに、信州大学山岳科学総合研究所長名

の賞状および副賞10万円を贈呈します。

4. 募集期間 2007年4月1日～7月31日

5. 応募方法

応募の書式は山岳科学総合研究所のWebサイト

<http://ims.shinshu-u.ac.jp/>

からダウンロードしてください。

「信州フィールド科学賞」

自薦を基本とし、応募の際に必要な書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけなどを2,000字程度(A4用紙で2枚以内)にまとめた調書、研究業績調書(口頭発表を含む)及び論文等の別刷です。

「信州フィールド科学奨励賞」

1種(高校生): 応募の際に必要な書類は、活動実績を示す調書、調査活動によって得られた成果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。

2種(卒業論文): 応募の際に必要な書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を2,000字程度(A4用紙で2枚以内)にまとめた調書、卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

6. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し、山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て、山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

7. 授賞式

授賞式は2007年11月17日に松本市で行い、受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

8. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに、電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は、2007年7月31日必着でお願いします。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム

〒390 8621 松本市旭3 1 1

Tel : 0263 37 2432 , Fax : 0263 37 2438

E-mail : suims@shinshu-u.ac.jp



学会・研究会などのお知らせ

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム2007

『未来を拓く環境研究 持続可能な社会をつくる』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて、京都および東京にて公開シンポジウムを開催しています。今年は、「未来を拓く環境研究 持続可能な社会をつくる」をテーマに、環境研究が「持続可能な社会」の構築にどのように貢献できるか、当研究所で行っている研究の一端をご紹介します。

日時・会場(参加費無料)

(1) 京都会場

開催日時:平成19年6月16日(土) 12:00~17:00

開催場所:シルクホール(京都市下京区四条通室町東入ル京都物産会館8階)

定員:約700名

アクセス:京都市営地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅より徒歩3分

(2) 東京会場

開催日時:平成19年6月24日(日) 12:00~17:00

開催場所:メルパルクホール(港区芝公園2 5 20)

定員:約1,200名

アクセス:JR浜松町駅より徒歩10分/都営三田線芝公園駅より徒歩2分/都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

プログラム

12:00~13:00 ポスターセッション

13:00~13:10 大塚柳太郎理事長による基調講演

13:20~14:00 亀山康子「地球温暖化を巡る国際交渉~その現状と課題~」

14:00~14:40 珠坪一晃「微生物を利用したバイオマスの資源化技術~廃棄物・排水の利用を考える~」

14:40~14:55 休憩

14:55~15:35 松橋啓介「脱温暖化社会に向けた交通とまちづくり~2050年の持続可能な交通の姿を今から考えましょう~」

15:35~16:15 一ノ瀬俊明「都市の温暖化と自然を活かした暑さ対策」

参加御希望の方は、参加希望会場（京都または東京）、住所、氏名、年齢、職業、連絡先（電話番号、Fax番号、E-mailアドレス等）を明記の上、下記あてにFax又は葉書にてお申し込みください。折り返し、E-mail、Faxまたは郵送にて参加票をお届けします。また、国立環境研究所のwebページ（<http://www.nies.go.jp/sympo/2007/index.html>）からも参加登録が可能です。参加費は無料です。

尚、申込多数の場合、会場定員に達した時点で申込を締め切らせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

【問い合わせ先】

国立環境研究所 公開シンポジウム2007登録事務局
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル18F
日本コンベンションサービス(株)内
Tel: 03-3508-1277, Fax: 03-3508-1706
E-mail: nies2007@convention.co.jp

2007年惑星科学フロンティアセミナー

日時：2007年7月21日(土)~24日(火)

場所：北海道ニセコいこいの村

主催：惑星科学フロンティアセミナー実行委員会

共催：日本惑星科学会、神戸大学21世紀COEプログラム「惑星系の起源と進化」

後援：日本地球化学会

惑星科学の最先端の問題について合宿形式でじっくり時間をかけて議論するセミナーを開催します。

今回のテーマは「太陽系の起源と進化」北大の塚本尚義氏を講師にお招きし、実験・理論・観測に基づいた塚本流の太陽系起源論・進化論を語っていただく予定です。セミナーでは、現時点における理解の整理、問題点の洗い出し、解決方法の探索、などなどをおこなえればと考えております。

惑星科学という分野の学際性をかながみて、初心者・専門外の方にも理解できるチュートリアル的な講義からはじめていただくようお願いしてあります。大学院生以上の、幅広い方面からの参加を歓迎します。

皆様お忙しいとは思いますが、真夏の蒸し暑い時期

に気候さわやかな北海道で開催しますので、ふるって参加、頭を貸していただければと思います。

会場

場所：ニセコいこいの村

<http://www.kinrou.or.jp/niseko-ikoi/index.htm>

<http://www.chuo-bus.co.jp/ikoinomura/>

- ・北大発着で送迎バスを運行する予定です。
- ・送迎バスの詳細は2nd Circularでお知らせします。

スケジュール

7/21(土) 夕方集合

7/22(日) 講義

7/23(月) 講義

7/24(火) 朝解散

参加費

全日参加 30,000円(含む3泊、朝食3、昼食2、夕食3)

- ・参加費は宿泊費、食費、運営経費等に使用します。
- ・参加費に交通費は含みません。
- ・部分参加については適宜割引します。

旅費の補助

神戸大学COEプログラム「惑星系の起源と進化」から旅費の補助をする予定です。ただし財源は限られていますので、必ずしもご希望にそえない場合があります。旅費の補助に関する詳細(申請方法など)については2nd Circularでお知らせします。

参加申込

2nd Circularにてお知らせします。

ホームページ

<https://www.wakusei.jp/news/meetings/2007/2007-07-21/index.html>

セミナーに関する情報は随時ホームページに掲載の予定です。

問い合わせ先

惑星科学フロンティアセミナー事務局

代表 はしもとじょーじ(神戸大)

お問い合わせはメールでお願いします

schoolstaff@wakusei.jp



人事公募

東京大学海洋研究所海洋化学部門 教授・1名

1. 採用人員：海洋化学部門 生元素動態分野 教授 1名
2. 公募の趣旨：

当研究所海洋化学部門（海洋無機化学分野および生元素動態分野の2分野で構成）では、海洋に存在する元素や同位体の分布と挙動、およびそれらを支配する生物地球化学的要因について、最新の海洋観測技術と分析化学的手法を用いて研究しています。特に生元素動態分野では、海洋における生元素の循環メカニズムを詳細に調べ、栄養塩類・有機物の動態と生物過程との相互作用に関する研究を深化させるとともに、これらの生物地球化学的サイクルが地域的あるいは地球規模での海洋環境変化に果たす役割の解明を進めています。

本公募では、海洋化学を基礎とし、斬新な手法・視点のもとに、海洋における生元素の動態に関する研究を総合的に推進する研究者を求めます。また、本学大学院の教員として、大学院教育にも携わっていただきます。
3. 提出書類：
 - 1) 履歴書（東京大学統一様式 http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html による。写真貼付のこと。）
 - 2) 研究業績目録（学位論文・原著論文（査読付き）・原著論文（査読無し）・総説・その他に分けること。和文のものは和文で表記すること。なお被引用回数がかかる場合には記入して下さい。）
 - 3) 主要論文5編の別刷（またはコピー）各1部
 - 4) これまでに行ってきた研究・教育の概要（1,000字程度）
 - 5) 今後の研究・教育に対する抱負（1,000字程度）
 - 6) 学会および社会における活動の実績、受賞歴等
 - 7) 外部資金（科研費・助成金・受託研究費・共同研究費等）の獲得状況（過去5年間）
 - 8) 応募者について参考意見を述べることのできる人（2名）の氏名および連絡先
4. 公募期限：

平成19年7月10日（火曜日）必着

5. 提出書類送付先：

〒164 8639 東京都中野区南台1 15 1

東京大学海洋研究所 所長 西田 睦

（封筒に「生元素動態分野教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留等で送付してください。特に要望がない限り、応募書類は選考後も返却いたしません。）

6. 海洋化学部門および所内の関連教員構成：

[分野等]	[教授]	[准教授]	[助教]
生元素動態分野	本公募	小川浩史	宮島利宏
海洋無機化学分野	蒲生俊敬	小畑 元	中山典子
先端海洋システム 研究センター	佐野有司	天川裕史	高畑直人
海洋科学国際 共同研究センター	植松光夫	-	-
国際沿岸海洋 研究センター	-	-	福田秀樹

問い合わせ先：東京大学海洋研究所 蒲生俊敬

〒164 8639 東京都中野区南台1 15 1

Tel : 03 5351 6451

E-mail : gamo@ori.u-tokyo.ac.jp

Web site: <http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/>

神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 准教授・1名

1. 職名・人数：准教授 1名
2. 所属：地球惑星科学専攻，惑星科学講座
3. 専門分野：惑星科学

地球惑星物質を対象として物質科学的・実験的研究をおこなう方が望ましい。
4. 職務内容：大学院理学研究科博士課程前期課程および後期課程の教育・研究のほか、理学部地球惑星科学科における教育・研究および全学共通教育にも携わっていただきます。また、平成19年4月に発足した理学研究科付属惑星科学研究センターのメンバーに加わっていただきます。
5. 応募条件：博士の学位取得者
6. 着任時期：平成19年11月1日以降のできるだけ早い時期
7. 提出書類：
 - (1) 履歴書（連絡先に電子メールアドレスを明記してください）
 - (2) 研究業績目録（査読付論文とそれ以外を区分し

てください。また主要論文5つに 印を付けて下さい。)

- (3) 各種研究費獲得歴, 受賞歴
 - (4) これまでの研究経過・主要な業績内容(2,000字程度)
 - (5) 今後の教育・研究計画および抱負(1,000字程度)
 - (6) 応募者について意見が伺える方2名の氏名・所属と電子メールアドレス
 - (7) 主要論文(3編以内)の別刷またはコピー
8. その他: 審査の過程で講演(セミナー)をお願いすることがあります。
9. 応募締め切り: 平成19年7月20日(金) 必着
10. 応募書類送付先および問い合わせ先:
〒657 8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
佐藤博明(専攻長)
E-mail: hsato@kobe-u.ac.jp
Tel: 078 803 5732
- (応募書類は、「准教授応募」と朱書きした封筒に入れ、簡易書留か、宅配便でお送り下さい)
- 当学科の構成等については、専攻・学科ホームページ(<http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>)をご参照ください。



院生による研究室紹介 No.6

大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻松田研究室

宮川千絵

今回は大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻惑星科学グループ(松田研究室)の紹介です。執筆担当は博士後期課程3年の宮川です。

当研究室は松田准一教授, 植田千秋准教授, 橋爪光助教, 松本拓也助教と研究員1名の5名のスタッフ, 大学院生9名, 学部生4名の計17名から構成されています(2007年4月現在)。昨年度末に大量の学生がめでたく卒業してしまい, もちろんそれと入れ替わりのように同じくらいの学生が新しく配属されてきたわけではあります, 数年来在籍していた方々がいなくなるというのは寂しいものです。こうなると, 就職氷河期と言われた頃に比べ, 好景気, 売り手市場といわれる昨今も良し悪しという感が拭えませんが……。ともあれ, 今年度4月に配属された学生さんとともに, 新生松田研はスタートしたところです(図1)。

学生が入れ替わっても, 少なくとも1人は女子学生



図1 松田研集合写真(前列中央が松田准一教授, 後列左から橋爪光助教, 松本拓也助教, 中央が植田千秋准教授, 右端が筆者)

がある，というのはこの研究室の不思議なところでありましょう。だからどうした，というわけではないのですけれども，付け加えておきます。

さて，当研究室ではどのような研究を行っているのか，簡単に説明していきましょう。私たちは隕石や地球岩石，または様々な鉱物を対象に，元素の同位体比測定，磁気測定，地震波測定といった，大きく分けて3つの実験手法を用いて，太陽系の初期形成史や，地球および惑星の内部構造，またその進化，あるいは惑星大気の進化などを明らかにしよう，と日夜研究に取り組んでいます。

希ガスや窒素の同位体を扱う研究には，例えば，隕石の起源や進化，また，同位体比異常からわかる太陽系外物質の研究や，太古の大気中の同位体組成，またマントル物質中の同位体分布の決定，あるいはそれらから大気・地球層構造の進化モデルの提唱，などがあります。中でも，隕石の希ガス同位体研究については，隕石中の希ガスの濃縮している成分を物理的に分離することに，当研究室では世界で初めて成功しましたことをここで申し添えておきます。ほかにも，希ガスの溶解定数や拡散係数の精密測定から，火成作用における元素の挙動を明らかにする，といった研究があり，実験対象は多岐にわたっています。隕石などは自分たちの手で採取する，という訳には行きませんが，各地の温泉ガスや地球岩石サンプルの採取は，自分たちの手で取りに行くという積極的な姿勢で取り組んでおります。また，他大学のグループと共同で，高温・高圧条件下でのサンプルを作成し，様々な物理条件下での元素の存在量を調べる，といったことも行っています。

磁気測定を扱う研究には，例えば，方解石やグラファイトなど，磁性をもたない結晶が磁場整列するというメカニズムの解明があります。物質の磁氣的性質に関する研究は，ほとんどが電子スピンの性質を対象としていますが，自然を構成する無機物質の多くは電子スピンを持っていない反磁性状態にあります。当研究室では，このような無機物質が電子スピンを持っていなくても配向する，ということに他に先駆けて見出しました。このような配向は，物質固有の反磁性異方性によって引き起こされます。そこで，この反磁性異方性の検出，磁気異方性が発生する物性について，この新しい性質の解明に取り組んでいます。また，星間ダストの磁場整列について，実験的にそれを再現するという研究にも取り組んでいます（図2）。

地震波を扱った研究では，物性測定実験としては地殻やマントルといった環境を模した温度・圧力条件下での様々な物質の地震波速度を測定しています。こうしたデータを蓄積し，数値シミュレーションで地球内部の構造を解明しようという取り組みです。地震波の測定を行う物質は，測定精度の向上の為，大きく，かつ組成が均一な結晶であることが理想であるので，他大学のグループとの共同で，巨大単結晶の育成も行っています。とはいえ，このテーマの研究を指導されていた教員が今年度から別の大学へと栄転なされたので，実際に取り組んでいるのは院生1人なのですけれども.....。

続いて，実際に実験で使用している施設を紹介していきましょう。希ガスの同位体測定には磁場型質量分析計が2台あり（図3），窒素の同位体測定用に四重極型質量分析計を使用しています。ほかにも安定同位



図2 ヘルムホルツコイルを利用したガス分散の実験装置（大型の容器内で粒子をガス中に安定して浮遊させ，磁場整列を観察）



図3 磁場型質量分析計 VG 5400で測定を行う学生

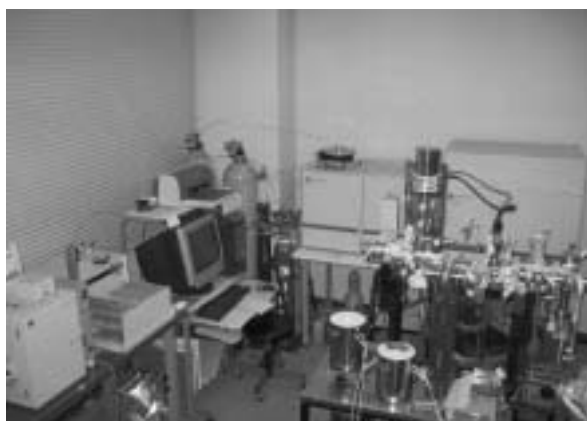


図4 安定同位体測定用の質量分析計（写真奥の一連の装置）

体測定用に質量分析計があり（図4）、最近ではこれを使って、人の呼気の同位体比変動や、各種食物の同位体比を測定するなど、少々変わった取り組みもあります。また、SEM、EDXを併用して、質量分析を行うサンプルの観察を行うなど、多面的に研究に取り組んでいます。

各自で取り組む研究のほかには、週に1回、研究室内でのセミナーが開催されています。この場でお互いの研究について、また関連する最新の研究テーマについてなど、様々な議論がなされています。この他にも学生個人がほかの研究室のゼミで発表する機会を作って意見交換をするといったこともございます。

研究内容や活動について、もっと詳しく知りたいという方は当研究室のHPをご覧ください。（アドレスは <http://psmac0.ess.sci.osaka-u.ac.jp/>）

冒頭で述べましたように、昨年度までいた学生が一気に卒業されたことで、学生の顔ぶれががらりと変わりました。今年度入った学生さんたちは、宇宙地球科学専攻で定期的に行われているソフトバレー大会に、（嘘か真か）ユニフォームを作るという提案も出るほどの団結力のある姿勢も見られ、これまで以上に活気のある研究室となっております。また、他大学との共同研究の他、いわゆる外部進学 of 学生、国内外問わずに学生を受け入れるという非常にオープンな研究室でもございますので、興味を持たれた方はぜひ一度おいで下さいませ。



女性研究者に聞く No.6

名古屋大学年代測定総合研究センター

准教授 南 雅代

「研究分野は？」

地球化学・分析化学

今まで岩石、堆積物、水、化石骨、貝などさまざまな物質の分析を行なって来ました。大学院時代は、岩石・堆積物中の微量成分（特に希土類元素）分析から年代や起源物質の情報を得る研究を主に行なっていましたが、博士学位取得後は、放射性炭素をツールとした研究をメインとしています。最近では、化石骨など文化財科学的な研究に力を入れています。

「家族は？」

同じく名古屋大学で教員をしている夫と4人の子ども、犬1匹、猫1匹の6人+2匹。夫は学部学生時代からのサークル仲間です。専門が理論物理で、物理が苦手な私には皆目理解不可能な分野ですので、お互いの研究に干渉し合うこともなく、適度な距離を保つことができている。また、理論系の夫は実験系の私よりも家にいる時間が長く、私が実験で夜遅くなっても、子どもたちの面倒は見てくれるなど、いろいろと助かっています。子どもが4人いることで、確かに研究生活はかなり制約を受けてきました。博士課程の間に2人の子どもを出産するという予期せぬ事態が生じたおかげで、博士の学位を取得するのに4年半もかかりましたし、乳飲み子を抱えている間は国内学会に出かけていくことさえ困難でした。たくさんストレスもたまりました。しかし、子どもがいるからこそがんばれるというのも事実です。今となってみれば、大変だった保育園の頃もなつかしい思い出です。

「アカデミックな道に進もうと思ったきっかけは？」

小学生の頃、学研の科学、というのを定期購読していて、いろいろな物を作ったり、観察したりする付録が楽しみでした。しかし、特に科学が好きで科学者になりたいと思っていたわけではなく、推理小説が好きだったので、推理小説によくでてくる弁護士や検事になりたいと思ったこともありました。法医学に惹かれ

た時期もあります。

大学受験の頃、そして大学に入学した頃は薬剤師を目指していました。薬剤師だと、家庭に入ってもアルバイト的なことでお給料がいただけるからいいのでは、と周囲から勧められたためもありますが、そもそも化学実験が好きだったからです。しかし、講義を受けていくうちに、薬学よりももっと基礎化学のほうに興味をわいてきて、結局、薬学部ではなく、理学部化学科に進学することにしました。卒業研究に選んだ講座は、無機合成化学講座。指導教官は当時助手（その後、東大理学部スペクトル化学研究センターの教授になりました。）の小林昭子先生でした。すでに結婚されていて娘さんが1人おり、ご主人も同業者でした。先生は、男性教官と肩肘張って、というところも、偉ぶったところもなく、とても女性らしく自然体でいながら、すごい才能を備えた人でした。また、直接の実験の指導は、韓国からの女性留学生でした。この方にはとてもかわいがっていただき、研究の基礎を教わりました。お二人の姿に憧れたものの、その当時は自分が同じような道に進むとは考えてもいませんでした。

大学院は、増田教授率いる無機分析化学講座を選びました。私が修士の時の増田研は、ざっと思い出しても、助教授に清水洋先生、助手に赤木右先生、中井俊一先生、日高洋先生、博士課程に平田岳史さん、猿渡英之さん、天川裕史さん、北島富美雄さん、大勢の留学生、同級生に鍵裕之くん、鈴木勝彦くん（などなど……）がいるという、ものすごい環境でした。みんなバリバリ実験・研究をしていて活気にあふれ、かつ、とても楽しい研究室でした。アカデミックな道に進もうと思ったきっかけがあるとするれば、この時の楽しい大学院生活と、卒論時に感じた女性研究者への憧れ、かもしれません。

「博士に進むときの家族の反応は？」

周りの優秀な人たちを目の当たりにして、自分には研究者になる能力がないと判断し、博士課程には進まず、民間のメーカーに就職する予定でしたが、同時に結婚・出産も控えていました。「はじめての育児と仕事の両立は無理では。就職はまだできるから、今は家庭に入ったら」という周囲のアドバイスもあり、悩んだ結果、内定を断って家庭に入ることを決心しました。心のどこかに、民間の会社には就職せず大学に残りたい、という思いがあったのも事実です。

修士課程を修了して家庭に入り、子育てに追われているお正月のことでした。専業主婦生活ももうすぐ1年になろうかという頃です。たまたま私からの年賀状を見た増田教授が、「家にいるようでしたら、博士課程に進みませんか」と声をかけてくださいました。東大退官後電気通信大学に移るので、そちらでどうかということでした。どこかに、研究への捨てきれない思いがあった私は、その時、博士課程に進むことを即断しました。願書の提出締め切り日が間近でしたので、ばたばたと博士課程に進んだという感じでした。家族は私の決断に反対するどころか、背中を押してくれました。また、その後、あり得る限りの助けをくれました。

このように、結局1年間で専業主婦の生活は終わったのですが、その間、自分だけが周りから取り残されていくという悶々とした思いを味わいました。主人が同級生で、大学の時は全くの同等だったのに、専業主婦となるや、単なる“奥さん”あるいは“お母さん”になってしまったわけです。もちろん、“単なる”などではなく、それはそれでとても素敵ですばらしいことですが、私には向いていなかったと言えます。1年間の専業主婦生活は、博士課程に進んでから辛い事があった時、「でもあのときよりまし……」という忍耐力のもととなりました。

「研究の中で印象に残るできごとは？」

1つは、自分が筆頭著者である論文がはじめて学術誌に載った時。別刷り請求のはがきが世界から届いて、とてもうれしかったのを覚えています。最近は電子ジャーナル化で、別刷り請求のはがきが来ることはめっきり少なくなりましたが。研究成果を論文にまで仕上げ、受理にまでもっていくには地道な努力が必要です。私は実験が好きですのでちょこまかと実験はするものの、やはり論文にすることに対して、未だにかなり高いしきい値があります。それ故に、自分の研究成果が論文となって印刷されるのは、何ともいえない喜びです。

もう1つは、はじめて海外の国際学会に出席した時。開催地が中国と近かったので、子どもと長期間離れて参加する決心がつきました。今は修士の学生でも国際学会に出席することが少なくないですが、乳飲み子を常にかかえた状態にあった私は、学振特別研究員（PD）の時がはじめてでした。世界のレベルを体感した瞬間でした。

「女性ゆえに損（あるいは得）をしていると感じることがありますか？」

最近雇用体制において男女共同参画が強く叫ばれ、例えば、国大協は2010年における女性教員比率20%という目標を提言しています。女性教員比率を向上させるための積極的改善措置（ポジティブ・アクション）として、業績の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用すると掲げる大学が増えています。まさしく、女性ゆえに得をするアクションです。しかし、時々、このポジティブ・アクションは意味があるのか、と考えることがあります。そもそも同等と判断することが可能なのか、こんなことをわざわざ声高く打ち出す必要があるのか、本当に女性のためになっているのか……。私が今の部局に採用された時、“部局の女性教員比率20%を達成するため、能力がないのに女性だから採用された”，という誹謗を耳にしました。恐らく、ポジティブ・アクションを掲げた公募で女性が採用されれば、多かれ少なかれ言われる（思われる）であろう誹謗です。普段は「女性だから……」と特別に思うこともないのですが、こういう時に、自分が少数勢力である女性であることを実感します。ポジティブ・アクションを掲げるのも、何となく“うちはポジティブ・アクションやってます、がんばってます”，というパフォーマンスのように見えるのが悲しいところです。ごく自然に、男性女性分け隔てなく正当に評価される世の中になるのが一番で、最近はそうなりつつあると感じています。

ところで、出産や授乳は女性にしかできないので、研究という面からだけ考えると、女性は損をしていることになり。確かに私も思うように研究時間がとれず、たくさんストレスがたまりました。しかし、もし1人も子どもがいなかったら、その分すばらしい研究ができたか、と聞かれると、今とそれほど変わらないような気がします。研究だけだと精神的に大変だったと思います。家庭と仕事の両立で、心のバランスがとれているようなところがあります。また、常に研究・教育・育児・家事というようにいくつものことを同時進行して行かなければならないわけで、世渡り術として、その時々でこれは必須事項、これは手を抜いてもいい事項、これは今無視、というふうに優先順位を決めて、適度に手を抜く術が身につきました。特に、育児・家事においては、適度ないい加減さは重要です。

「後輩に一言（女性研究者へのすすめ）」

現在多くの大学が、助教ポストをなくしたり、あっても任期制にする、という方針を打ち出し、たとえ博士課程に進んでも定まったアカデミックポストを見つけるのが困難という状況になっています。このような状況で、研究は楽しいですよ、研究者への道へどうぞ、と無責任に誘うことはできません。しかし、研究が楽しくてもっと続けたい、研究者の道に進んでみたい、と思う人がいれば、女性だから……、能力がないから……、などと言いつけて逃げるのではなく、チャレンジしてみたいか、と聞いてほしい。世の中は男女共同参画の流れで、努力すれば男性・女性にかかわらずきちんと報われる時代になってきていると感じます。出産・育児による研究中断後、研究現場に復帰できるように支援する“学振特別研究員（RPD）事業”がはじまったことからもうかがえるように、若手女性研究者が生き残れる、活躍できる世の中になりつつあります。みなさんのご活躍を期待しています。



書評

『環境～いま伝えたいこと～』

著者：溝西 匠・川野 良信・中島 道夫・岡島 俊哉・中村 聡・三原 信一

出版：ヘリシテイー出版（神戸） 2006年4月発行

ISBN 4 9901462 2 0

定価：1,429円

多くの基礎教育、あるいは共通教育の場で「環境」は避けて通る事のできないテーマであろう。本会会員の多くがその講義あるいは講座に関わっておられるに違いない。そこでは、元々環境を意識した研究をされ、ご自身の研究そのものとして講義をなし得る場合と、これまで物理・化学・生物・地学など既存の分野に軸足を置いてきた研究者が環境の講義を行う場合には、その内容や構成にさまざまな違いがあろう。

本書は、佐賀大学文化教育学部環境基礎講座に属し、動物生理学、同位体岩石学、無機化学、有機化学、理論物理学、熱工学を専門とする6名の教員が、公開講座「環境」を担当する数年間に工夫を重ね、内容を充実させ、一冊の本にまとめたものである。本書は、

いずれも自然科学を基礎とする7章から構成されている。共通する特徴は、本書のはしがきにも記されているが、理学や工学の基礎論理に立脚し、「なぜそう考えられるか」にまで立ち返って環境が論じられていることである。そこにはこれまで講義をしてきた基礎理学の内容と「環境」への有機的連携が強く意識されている。自分で判断でき、時流に流されない学生を育てたいとの工夫でもあろう。

第1章は、「環境」とは何なのか論じられている。

「環境中心」をヒト以外のものに置き換えた見方も紹介されている。第2章は、本会会員の川野良信氏が執筆され、いわゆる地球科学的視点から見た地球環境の骨格が形成される過程が紹介されている。第3章は、「金属と人体」との章題がつけられているが、化学結合から錯体化学を解説した後に、人体構成元素や核酸、食品へと展開する。化学の基礎がしっかりと刷り込まれる。第4章は水の性質と水環境について書かれている。といっても地球化学というより、土壌浸食や風化にも話題がおよび、農学にも近い内容である。これら2つの章は化学を専門とされてきた方が環境に攻め込むとこうなるかと教わる事が多いところである。

またこの2つの章では、身近な場面から環境問題への導入がなされているが、例として取り上げられている場面(写真など)はいずれも佐賀県内の、おそらく聴衆ならだれでも知っているであろうシーンが多い。第5章は「生物環境」、第6章は「放射線」である。放射線、といっても物理の電磁波の性質から始まり、放射線化学へとすすむ。環境中の放射線の解説から、最後はもちろん核エネルギーである。第7章は「エネルギー問題と対応策」である。

本書を紹介したのは、ひろく会員にその内容を読んでもほしいこと以上に、佐賀大学の6人の先生方、とくに化学を専攻されてこられた先生方が、いかに工夫をして環境に攻め込んでいるか！ 教育にたずさわる会員の『兵法書』としてすばらしい書に思えたからである。

本書は、佐賀大学で教科書として使うことを主目的として出版されたので、一般書店からは入手しにくい。直接、佐賀大学生協同組合(0952 25 4451)に申し込むか、会員の所属する生協書店などがあれば、上記佐賀大学生協から取り寄せ可能とのことである。

(名古屋大学・田中 剛)

165 mm

講演番号記載
スペース (空欄)

40 mm

10 mm

講演題目

○ 岡山桃太郎¹、瀬戸内橋子¹、晴国美星²
(¹岡山大理、²津島大理)

25 mm

講演要旨作成上の注意

- 1) フォントはできるだけ明朝体を使ってください。
- 2) 原稿は、B5 版になります。文字が小さくなりすぎないように注意してください。
- 3) 枠は範囲を示しているだけです。書く必要はありません。
- 4) A4 用紙に上部 31 mm、下部 30 mm、左 22.5 mm、右 22.5 mm のマージンを設定してください。
- 5) 研究題目、発表者、ならびに所属は例示に準じて記入し、講演者の左側に○印をつけてください。講演題目などに関する英文標記についても同様です。
- 6) 左上の講演番号を印刷するスペースは必ず空けておいてください。
- 7) PDF ファイルで送るため、300 kb 程度のファイル容量で作ってください。
- 8) 一般講演は、要旨 1 ページ、課題講演は 2 ページまで。
- 9) 原稿は、プリントして正常に印刷できるかご確認の後送ってください。
- 10) 講演要旨の締め切りを厳守してください。

190 mm

Theme title

○ M. Okayama¹, K. Setouchi¹, B. Harekuni² (¹Okayama Univ. Fac. Sci., ²Tsushima Univ.)

20 mm

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，シンポジウムの案内，人事公募，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メール，フロッピー（マックもしくは Dos/V いずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2007年8月頃を予定しています。ニュース原稿は7月中旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者

山本鋼志

〒464 8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究科
（理学部気付）

Tel/Fax : 052 789 2522

E-mail: news-hp@geochem.jp

南 雅代

〒464 8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学年代測定総合研究センター

Tel : 052 789 3091

E-mail: new-hp@geochem.jp